

日本のいちばん長い日

観賞日 2017・11・13

制 作 2015 年 製作委員会

上映時間 136 分

配 給 松竹

原 作 半藤一利

脚 本 原田真人

監 督 原田真人

出 演 本木雅弘（昭和天皇）、山崎努（内閣総理大臣鈴木貫太郎）、役所広司（阿南惟幾陸軍大臣）、中嶋しゅう（東條英樹）、堤真一（迫水久常内閣書記官長）中村育二（米内光政海軍大臣）松坂桃李（田中少佐）松山ケンイチ（佐々木警備隊長）

（あらすじ）

連合国からのポツダム宣言を受諾するかについては日本政府部内では連日のように会議が開かれていた。そうした状況の中で、広島、長崎に原爆が落とされ、ソ連も参戦する。連合国へのポツダム宣言を受諾するか否かの回答は一刻も猶予も許されなかった。政府部内では受諾派が大勢を占めるが、陸軍では、若手将校を中心とする本土決戦を主張する者も多く、閣議は紛糾し陛下の御聖断を仰ぐことで落ち着いた。そして、陛下の御聖断によって受諾が決定され、これに陸軍内部は猛反発する。急進派の畑中少佐（松坂桃李）、椎崎中佐（田島俊弥）をはじめとする何人かはクーデターを計画する。若手将校たちは宮城を占拠し、陛下の録音盤を奪取せんと試みるが失敗し、いわゆる「宮城事件」は不発に終わった……

（解説）

2015 年、戦後 70 周年を記念して作られた映画である。その 50 年前、1965 年に岡本喜八監督が戦後 20 周年記念映画を作っているの、実に 50 年ぶりの終戦映画である。今回の映画のメガホンを執ったのは日本映画界の俊才原田真人（1949～）。かねてから、70 周年記念映画は自分が執るのだと自負しており、シナリオも自分が書き、周到な準備をしていたという。原田は本映画を家族のドラマとし、100 人を超す登場人物から、鈴木貫太郎総理、阿南惟幾陸軍大臣の二人を選んだ。総理になる山崎努、阿南を演じる役所広司はまさに余人をもっては代えがたい人選で、両者の昭和天皇への思いが人間天皇への思いと重なり濃密な人間関係を構築している。阿南の娘の結婚式の会場探しを心配する陛下の温情などそうした場面はいくつも見かける。70 年前の映画と今回の映画が大きく変わっているのは昭和天皇の扱い方であろう。前作では、昭和天皇は松本幸四郎が演じたが、幸四郎の名はポスターには『特別出演』として役名を伏せてクレジットされ、映画の中でも天皇は遠景や、後ろ姿、手元のアップでしか描かれず、生身の天皇を描くことは、はばかられ、まだ、恐れ多い時代だったのである。戦後 70 年の歴史の変化はたしかに天皇の方から国民に近付いたのである。